

(様式1)

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究(小・中学校)」
平成23年度委託事業完了報告書

【推進地域】

都道府県名	千葉県	番号	51
-------	-----	----	----

推進地区名	推進校名	研究主題
千葉県	千葉市立轟町小学校	I・Ⅲ型
千葉県	千葉市立緑町中学校	I・Ⅱ型

○ 取組の概要

1. 重点課題への取組状況

(1) 平成23年度の重点課題

①教育委員会において

- 千葉市学校教育推進計画において「自ら考え、自ら学び、自ら行動できる力を育む」を教育目標とし、新学習指導要領の趣旨や理念を踏まえた指導法の工夫・改善を図る。
- 千葉市教育委員会が作成する「千葉市学校教育の課題 21世紀を拓く」において、わかる授業の推進に向けた各教科の課題解明のために「児童生徒がねらいをもつための工夫」「言語活動を充実させるための工夫」「評価と指導の工夫」を指針として、授業改善について、より具体的な指導助言をする。
- 本研究での成果を市内各小・中学校における「確かな学力の育成のための取組」の資とする。

②推進校において

- 各推進校において、平成22年度から取り組んだ実践研究で解明された学力向上のための方策等の有効性を高めるとともに、実践研究のまとめを行う。
- わかる授業の推進に向けて、児童生徒の実態をもとにした単元開発や授業改善を図る。
- 電子黒板等、ICTの積極的活用による授業改善の有効性について検証する。

(2) 取組状況

- ①教育委員会として本市の児童生徒の学習状況について、全市的な傾向を分析的、総合的に把握し、その結果を教育施策に反映させると共に、児童生徒の学力向上に向けての方策

に生かす。

- ②教育委員会において本市の学校教育の課題を明らかにし、学校訪問指導や教育課程説明会、教科等主任会等で課題解明に向けた指導助言をする。
- ③推進校において、平成22年度からの研究の成果を元に、継続して児童生徒の実態に即した学力向上のための実践研究を行う。
- ④児童生徒が主体的に学び、学びの達成感、成就感を味わわせるための工夫、確かな学力を身につけさせるための授業改善として、ICTの積極的活用を図り、その成果について検証する。
- ⑤児童生徒の実態把握、授業改善、実践、評価というPDCAサイクルを確立した実践研究を行い、学力向上の推進を図る。
- ⑥推進校での研究成果を研究報告会において提案し、市内各小中学校に取組の成果を広く発信する。

2. 調査研究の成果及び今後の課題

(1) 調査研究の成果

- 各推進校において研究発表会を開催し、新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上に向けての授業改善について、市内小中学校における学力向上の意識の向上と普及が図られた。
- 新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育内容に関する、単元開発や指導方法の開発・改善、思考力・判断力・表現力を育成するための言語活動の充実を図った授業改善等について、市内小中学校への促進が図られた。
- 推進校において、児童生徒が自ら目的意識をもち、表現したり、交流したりする言語活動の在り方について検証した結果、児童生徒の学習への満足感や成就感が高まり、主体的に学ぶ授業改善について、成果が得られた。
- 推進校において「児童生徒につけたい力」を明確にした授業実践の継続により、指導と評価の一体化を図ることができた。
- 電子黒板を有効に活用した授業実践により、児童生徒が主体的に学び、学習意欲の向上を図ることができた。

(2) 今後の課題

- 市内小中学校において、児童生徒の学力向上に向けた取組や教員の授業力向上に向けた取組が推進されるよう、教育委員会として指導助言を行う。
- 各教科のねらいに迫るための言語活動の工夫や充実について、推進校の実践研究の成果を広く発信しながら、「習得」「活用」等を充実させる言語活動等の授業改善を推進する。
- 今後も各学校の特色ある教育活動を推進する中で、家庭、地域との連携・協力を得ながら学力向上に向けた取組の工夫改善を図る。

(様式1)

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究（小・中学校）」
平成23年度委託事業完了報告書
【推進地域】

都道府県名	京都市	番号	59
-------	-----	----	----

推進地区名	推進校名	研究主題
	京都市立小栗栖小学校	I, II, IV, V
	京都市立下京中学校	I, II, III, V

○ 取組の概要

1. 重点課題への取組状況

平成23年度は、「全国学力・学習状況調査」や「京都市学力定着調査」、小学校の「ジョイントプログラム」、中学校の「学習確認プログラム」等の客観的データの分析を行い、各校の学校実態や課題を分析してどのように学習に取り組むべきかを策定した「学力向上プラン」と連動した学力向上の取組を組織的に進めた。

本事業推進校については、公開授業研究報告会の実施や研究内容の公開など、全市への先進的な取組の発信を行った。

小学校においては平成23年度から新学習指導要領が全面実施となり、中学校においては、全面実施を翌年に控え、円滑な移行に万全を期すため、各教科・領域等の研修については、改訂や移行措置の内容を十分に含めた研修を充実するとともに、言語活動の充実をはじめ、環境教育、生き方探究教育、ICTの活用など、教科等を横断して改善すべき事項についても研修内容に取り入れることで、教職員の理解を深めた。

また、24年度からの中学校新教育課程実施に伴い、本市全中学校において活用する京都市独自の各教科領域の指導計画（京都市スタンダード）を作成するにあたり、本推進校の教員を作成委員に任命し、指導計画の内容に推進校における研究成果を生かせるようにするなど、取組の効果的な普及を図った。

2. 調査研究の成果及び今後の課題

(1) 成果

小栗栖小学校においては、算数科を切り口に「ことばの力」の育成を目指した研究に取り組むとともに、家庭学習・補習・帯時間の学習・各学力定着調査への取組と分析という学力向上への取組を行った。また、授業改善として全学級が1年間算数科において「小栗栖スタンダード」（TT・習熟に応じた学習を生かした算数科の授業構造）の授業形態で取り組み、毎時間の算数において担任とTTが足場の設定やコース別学習のプリントを準備する等、日々の授業実践につながる取組となった。京都市の学習支援プログラムとしての「ジョイントプログラム」について、6年生は5年生の時に比べ得点も上がり、上位層の児童も増えてきた。また、子どもたちの生活習慣の改善を目指して、自ら主体的に考えて実践する「おぐりとすっこの生活向上」の取組を、総合的な学習の時間に位置付けて推進し、児童が自分の生活実態を知り、学習のねらいや課題を共通理解することができた。また、この取組が認められ、「日本学校保健会健康教育推進学校表彰」を受賞した。

下京中学校においては、家庭学習の習慣をつけるため、毎週木曜日を家庭学習課題（1週間分）が出る曜日と決め、次週点検するというサイクルを作ることにより、毎日の学習計画を立てる習慣を身に付けた生徒が増えた。また、「言語活動の工夫」をテーマに「問う力を鍛える」という新たな視点を切り口にして授業を見直し、授業改善を重ね、校内授業研究では研究テーマに沿った授業を全教員が提案し、他教科も含めて互いに参観するなど、学校全校体制で研究を進めた。「問う力」を育てるには、発問が重要となることや「問う」から「考える」段階で、「書く」という学習過程が有効であることが、各教科共通して見られた。また、京都市の学習支援プログラムとしての「学習確認プログラム」では、3年生は確実に向上し、平均的だった社会科と理科についても伸びを示すなど、全教科において一定の成果を得た。学年の経年比較においても上昇経過となった。

（2）課題

小栗栖小学校においては、「小栗栖スタンダード」をさらに進め、より効果的な習熟度別の少人数授業の研究を深めて、部会等での授業研究を活性化していく必要がある。「おぐりとすっこの生活向上」の取組では、児童の興味関心を高め、より効果的な内容にするとともに、保護者への啓発をさらに進めていく必要がある。また、学校評価の中で「学力向上」「授業研究」「支援教育」「生活習慣」「人権教育」といった重点課題に関わる項目を設定し、評価・分析した結果、教職員は取り組んだことで100%「できている」という評価をしていますが、児童や保護者の中には「そう思わない」という意識もあることから、今後も取組を深めるとともに保護者や地域への発信を進めていくことが重要である。

下京中学校においては、質問しようという意欲はあっても、言葉に表そうとするとうまく伝わらないというように生徒の語彙力未熟な点も見られる。また、生徒同士のやり取りの中でも、お互いに質問し合うことはできるが、相手の答えが不十分であっても、さらに納得するまで、もっと掘り下げて質問を返すことができていないという課題もある。さまざまな学習場面での言語活動の工夫はもとより、言語活動を支える基礎的・基本的な知識の習得を積み重ねていくことが重要である。

(様式1)

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究（小・中学校）」
平成23年度委託事業完了報告書
【推進地域】

都道府県名	堺市	番号	61
-------	----	----	----

推進地区名	推進校名	研究主題
堺市	堺市立浜寺小学校	I・II・III型
堺市	堺市立美原西中学校	II型

○ 取組の概要

1. 重点課題への取組状況

(1) 学年・学級間のギャップの解消

① 小中一貫教育推進事業

- ・小中一貫教育推進校を21中学校区に指定し、推進校の中学校に小中一貫教育推進リーダーを配置し、小中学校教員の合同研修や小学校での中学校教員による授業など、小中学校を結ぶ取組のコーディネートを行い、小中一貫教育を推進した。
- ・1つの中学校に進学する小学校の数は各中学校区によって異なる。1小1中、2小1中、3小1中といった中学校区の他、複数の中学校に進学する4小2中や5小2中の中学校区もある。また、小・中学校が隣接している場合や離れている場合など、各中学校区の立地条件も異なる。本市では、現状の各小・中学校の立地条件は変えずに、現在の校舎をそのまま使用し、それぞれの中学校区の特徴や地域の特色を生かした一貫教育を進めている。

② 小中一貫教育カリキュラムの開発・作成

「子ども堺学」等の小中一貫したモデルカリキュラムや学習プログラム及び教材コンテンツを下記のとおり開発・作成している。

◆学習プログラム(カリキュラム表・指導案・教材コンテンツ・ワークシート)の作成

- ・義務教育9年間全体の概要と、各学年の内容を表すカリキュラム表を作成している。
- ・指導案は、小学校5年～中学校1年の3学年を対象とし、系統的な指導ができるよう教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間が相互にリンクする形で、下記のとおり各学年3種類作成した。
 - A：5～6時間の指導案…短期集中的にプログラム展開できるように設定する。
 - B：10～15時間の指導案…2週間～1カ月でプログラム展開できるように設定する。
 - C：30～40時間の指導案…課題発見・解決案提案などを行うプロジェクト型学習活動とし、3～6カ月でプログラム展開できるように設定する。

◆ポータルサイトの作成

- ・上記の指導案に整合するポータルサイトを作成した。地域の教育資源に関わるイラストや画像、動画などをコンピュータとプロジェクト(またはデジタルテレビ)を用いて投影できる。

◆ワークシートの作成

- ・上記の指導案に整合するワークシート(資料等、児童生徒に配布するプリントのデータを含む)を作成している。

(2) 言語活動の充実と確かな基礎知識の定着

① 堺市思考力コンテストの開催

学習意欲の向上を図るとともに論理的思考力・判断力・表現力を養うことを目的に、小学校5、6年及び中学校全学年を対象に「堺市思考力コンテスト」を下記のとおり開催した。

本市では、継続して本コンテストを開催しており、今年度は3年目である。年々参加校及び参加児童生徒数が増加しており、各学校の授業改善にもよい影響が出ている。

◆小学生の部

- ・日 時 平成23年12月3日(土) 12時00分～16時30分
- ・場 所 堺市立大浜体育館
- ・参加者 堺市内の小学校に通学する小学5・6年生
- ・内 容 50校256チーム(768名)がエントリーし、その中から、決勝大会に参加する25校30チーム(90名)を審査会で選出した。決勝大会当日は、出題された問題の解答を選抜されたチームで考え、考えをまとめたものを発表した。また、参加児童は他のチームの発表を聞き、審査もした。審査の結果、金賞・銀賞・銅賞に選ばれたチームは、平成23年12月26日(月)「堺・教育フォーラム」にて表彰した。

◆中学生の部

- ・日 時 平成23年11月19日(土) 9時40分～11時40分
- ・場 所 堺市立堺高等学校
- ・参加者 堺市内の中学校に通学かつ堺市内に在住する中学生1～3年生 303名
- ・内 容 出題された問題を自分の力でじっくり考え、解く。生徒は問題に対する考え方や解決方法を筋道立てて表現する。採点の結果、最優秀賞・優秀賞・優良賞に選ばれた生徒は、平成23年12月26日(月)「堺・教育フォーラム」にて表彰した。

③小6向け基礎・基本確認問題集「中学への道」の配付

小学校6年を対象に、小学校で学習した基本的な知識や技能の確実な定着を図り、中学校への円滑な接続を図るために小学校ふりかえり教材「中学への道」を作成・配付した。

(3) 自尊感情を高める取組

①小中学校合同で研究授業を行う際、下記の自尊感情に関わるチェックシートを活用し、小中で同様の観点で授業観察をする。

	存在感(居場所)育成	有用感(役割)育成	有能感(達成感)育成
w o c	<ul style="list-style-type: none"> ●目的やルールを共有した集団の育成 ●支持的風土の形成(環境づくり・指導) ●安全・安心な集団の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ●集団の一意としての役割や出番がある(当番、係、児童会・生徒会委員会や役員) 	<ul style="list-style-type: none"> ●行事等で団結して目標を達成 ●学級の課題は自分たちで解決する ●児童会・生徒会の自治活動の発展
教 科 授 業	<p>全員参加の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学習環境・学習集団づくり ●事前指導や導入の工夫 ●学習規律や学習ルールの徹底 ●楽しくわかりやすい授業 ●授業形態の工夫(グループ学習・ペア学習) 	<p>言語活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ①発問……思考を深める具体的な発問 ②自力解決……全員が「書く」「考える」指導 ③相互解決……グループで「学び合い」の仕組化 →異なる考え・意見で深化→発表の場の設定 →思考プロセスとプレゼンテーションの評価 	<p>授業での形成的評価と個別指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ●板書・まとめ・事後指導 ●朝読書・補充授業の継続指導 ●家庭学習達成状況の評価 ●自学自習できる力の育成
L A ウ	<ul style="list-style-type: none"> ●教室での学びと社会とのつながりを考える学習 ●「学ぶ意義」を考える学習 ●15歳段階の進路選択を見据えた「将来の夢」 	<ul style="list-style-type: none"> ●「役に立つ喜び(勤労観)」の育成をめざす系統的な体験学習の充実 ●事前・事後学習が充実した職場体験学習 ●「有用感」への他者からの積極的評価 	<ul style="list-style-type: none"> ●達成成果を自ら確認できる学習活動 ●学習知識を加工・編集し情報発信する活動 ●ポートフォリオなど取組プロセスの自己確認
カ k w 7	<ul style="list-style-type: none"> ●「自己存在感」(生徒指導の3機能) ●いじめ・不登校がない ●教室は安全・安心のある居場所づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ●「共感的人間関係」(生徒指導の3機能) ●思いやりがある集団づくり ●規範意識・マナー向上の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ●「自己決定」(生徒指導の3機能) ●「やればできる」ことを集団で共有する ●プロセスと結果を分けて評価する

②「堺・教育フォーラム」の開催(平成23年12月26日)

■推進校である浜寺小学校の研究発表

実践発表テーマ「習得・活用・探究のつながりを意識した学習活動を通して」

1. 自尊感情について

他者との関わりを通して、自分をかけがえのない存在として捉える気持ち

- ・自分についての意識
- ・他者との関わりについての意識
- ・社会への貢献感

2. 自尊感情をはぐくむために(総合学力との関連)

子どものよさを評価し、個々の実態に応じて、個性を伸ばす学習活動を展開し、他者との関わりを通して、子どもが成就感や達成感を感じることができるようになる。

- (1) 教科学力の向上と関わって
- (2) 社会的実践力の向上と関わって
- (3) 学びの基礎力の向上と関わって

3. 実践事例 第4学年「読書生活向上プロジェクト」(教科横断的な単元構成)

- (1) ねらい
- (2) 単元展開と子どもの様子

①読書生活向上プロジェクトにおいて読書をすることの意義をみんなで考え、生活の中に読書をする

時間を今まで以上に多く取り入れ、読書を習慣化できるようにする。

②読書生活向上プロジェクトと、算数科「折れ線グラフ」の単元、国語科「読書生活について考えよう」の単元を関連付けることで、子どもが意欲的に学習できるようにする。

③相互評価の場面を設定し、自分の学習過程や作品の良さに気付くことができるようにする。

(3) 成果と課題

③「堺・子ども“ゆめ”フォーラム」の開催

1. 日 時 平成24年2月18日(土) 13時00分～16時00分

2. 会 場 堺市産業振興センター・イベントホール

3. 参加人数 児童生徒 約280名
保護者・市民等 約530名

4. 内 容

堺市では、自ら学び、学んだことを社会で生かす「総合的な学力」の育成に向け取組を進めている。本フォーラムでは、市内の小・中学校、高等学校の児童生徒約280名が、教科や総合的な学習の時間、児童会・生徒会活動、クラブ活動などを通して、学んだことや考えたことを保護者や市民に向けて発表した。

5. 当日の様子

今年度は、東日本大震災を受け、地域の防災マップづくりに取り組んだ学校や、学校で節電に取り組んだ学校などが、ポスターやプレゼンテーションソフトを使って発表した。また、会場には登美丘中学校茶道部が「茶の湯体験コーナー」を設置し、中学生が参加者にお茶を振る舞う場面もあった。

会場からは、「緊張したけど、これまで勉強したことを伝えることができたと思う。(小学6年生)」「各学校で工夫した取組を行っていることがよく分かった(市民)」などといった感想があった。

6. 発表校(推進校の浜寺小学校・美原西中学校含む)

	学校名	学年	タイトル
1	大仙小学校	5年	大仙公園の魅力を発信しよう!
2	浜寺石津小学校	5年	missionは省エネ ～I'm possible～
3	西百舌鳥小学校	5年	これからの「エネルギー」を考え発信しよう
4	土師小学校	6年	エネマネプランを堺市に提案しよう
5	白鷺小学校	6年	エネマネ博士になろう
6	福泉東小学校	6年	グリーンネットワークを広げよう
7	美原北小学校	5年	起こりうる災害、心の備えを万全に!
8	西陶器小学校	6年	こんな自転車欲しかってん
9	赤坂台小学校	4年	赤坂つばめ探検隊
10	金岡小学校	6年	レッツ!ボランティア!～いのち・ひと・つながり～
11	安井小学校	5年	東日本大震災から学ぶ ～防災・ひと・くらし～
12	浜寺小学校	児童会	浜寺っ子 プロジェクト進行中 浜寺小児童会
13	神石小学校	委員会	「親しめる石津川」をめざして
14	榎小学校	委員会	チャレンジえのキング・チャレンジフェスタ
15	大泉中学校	生徒会	生徒会活動で小学校と中学校をつなげよう!
16	さつき野小中学校	児童会・生徒会	みんなの力で「さつき野学園」を創ろう!
17	登美丘中学校	クラブ	堺の伝統=茶の湯の文化に触れてみませんか!
18	美原西小学校	展示	ESDによる自然体験を通じた課題対応学習
19	錦小学校	展示	いっしょにエコ日記～節水を広げよう～
20	向丘小学校	音楽隊	※音楽隊55名による打楽器7重奏とステージマーチング
21	金岡南中学校	クラブ	※ギター部22名によるギター演奏
22	美原西中学校	自由研究	※大阪府学生科学賞入賞者4名による研究発表
23	八上小学校	自由研究	※大阪府学生科学賞入賞者4名による研究発表
24	三原台小学校	自由研究	※大阪府学生科学賞入賞者4名による研究発表
25	浜寺小学校	自由研究	※大阪府学生科学賞入賞者4名による研究発表
26	堺高等学校	国際・環境	ベトナム・ハロン湾プロジェクト
27	府立三国丘高等学校	SSH	天然ゴムの加硫・斜面上の円柱における速度と回転の勢いⅡ

2. 調査研究の成果及び今後の課題

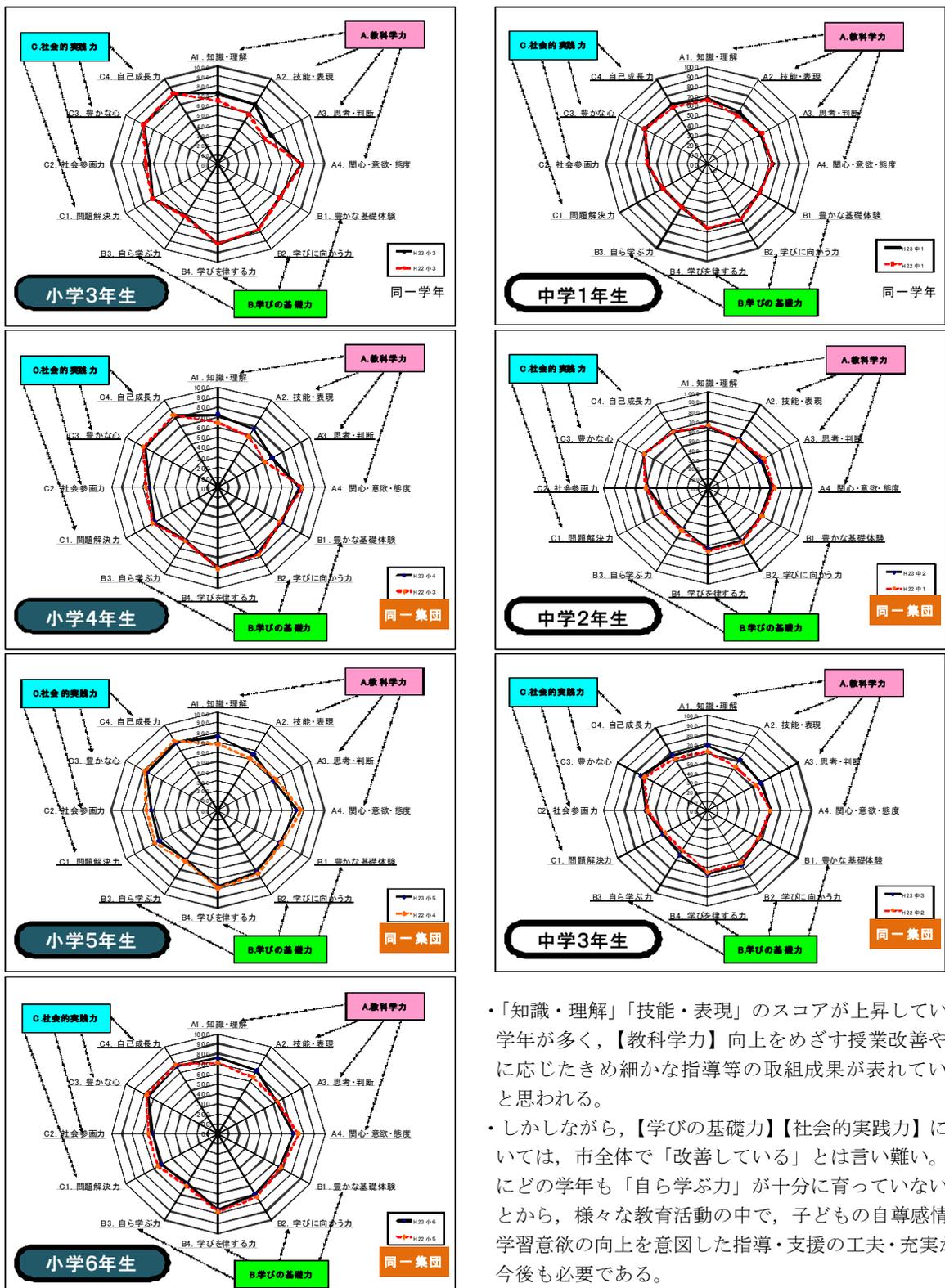
(1) 「堺市『子どもがのびる』学びの診断」の実施

全小中学校の小学校3年～中学校3年を対象に悉皆で11月15日（火）に実施した。児童生徒一人ひとりの連続的な学びや成長を把握し、きめ細かな課題分析を行い、各学校の取組の効果を検証し、次年度の「学力向上プラン」を策定している。

(2) 堺市「子どもがのびる」学びの診断の分析（経年比較分析）

① 「総合学力プロフィール」の結果について

■平成22年度と平成23年度のレーダーチャートでの経年比較



・「知識・理解」「技能・表現」のスコアが上昇している学年が多く、【教科学力】向上をめざす授業改善や個に応じたきめ細かな指導等の取組成果が表れていると思われる。

・しかしながら、【学びの基礎力】【社会的実践力】については、市全体で「改善している」とは言い難い。特にどの学年も「自ら学ぶ力」が十分に育っていないことから、様々な教育活動の中で、子どもの自尊感情・学習意欲の向上を意図した指導・支援の工夫・充実が、今後も必要である。

■「学びの基礎力」の分析

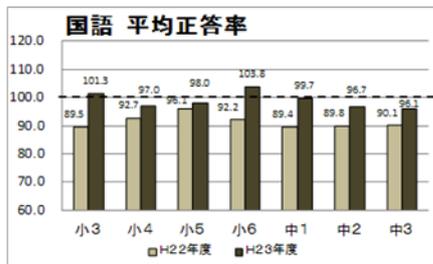
- ・【学びの基礎力】を構成する4つの領域とも、昨年度と比較して著しいスコア低下は見られない。
- ・小6では、4つの領域すべてで、昨年度を上回る結果になっている。
- ・「豊かな基礎体験」で中学校において段差的に低下しているのは、「本やインターネットを使って調べる活動を行っている」というメディア体験で、中学校で否定的回答が7割を超えているからである。
- ・「学びを律する力」でも中学校で低いのは、学習継続力や「授業中は、学習に集中している」の質問について、生徒の肯定的回答が大幅に減少しているからである。

■「社会的実践力」の分析

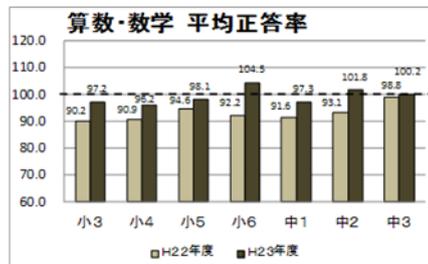
- ・「問題解決力」では、小中学校間の段差はあるものの、中学校では昨年度より上昇している。また、「授業で意見などを発表するとき、工夫している」という「結果の表出力」についても、小中学校間での格差が大きい。
- ・「豊かな心」を構成する「責任感・貢献」や「他を尊ぶ心」では、全学年で肯定的回答が8割を超えている。しかし、「挑戦力」や「創造的態度」については、小5以上で否定的回答が増える傾向がある。
- ・「自己成長力」で小6以上の学年で、昨年度より上回っている。今後も「将来の夢や目標」を子どもたちがもてるような働きかけ、取組が求められている。

②国語、算数・数学、英語の調査結果について 全国参考値との比較（同一学年比較）

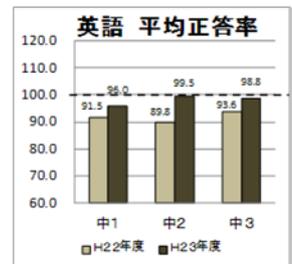
全国参考値を100とした各学年・各教科の同一学年経年比較



◆昨年度と比べて、各学年とも約1.9P～11.8Pの伸びがある。特に小3で11.8P、小6では約11.6Pと大きく伸びている。

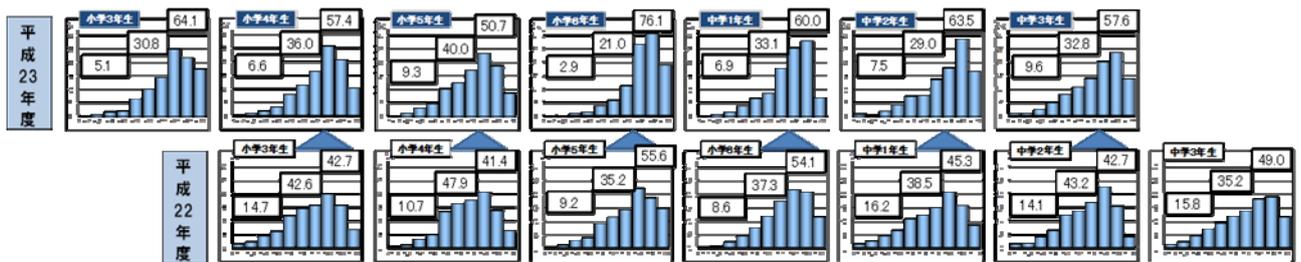


◆昨年度と比べ、各学年とも約1.4P～12.3Pの伸びがある。特に小6で12.3P、中2で3.7Pと大きく伸びている。



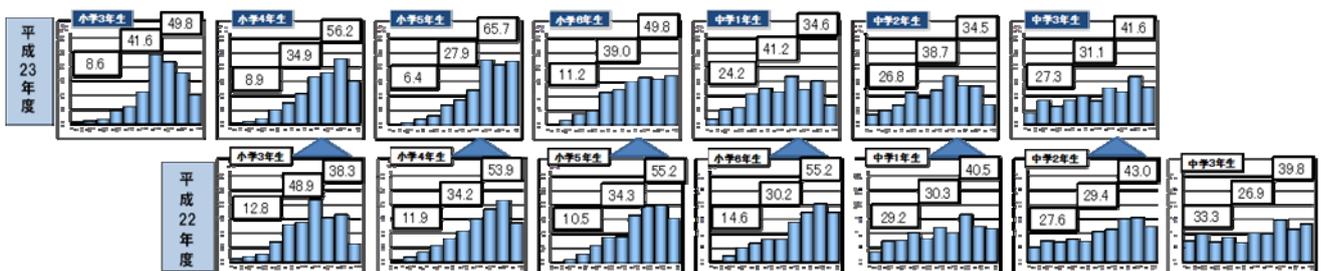
◆昨年度と比べて、4.5P～3.7Pの伸びがある。特に中2で3.7Pと大きく伸びている。

■国語 度数分布の分析



- ・全体的に下位層・中位層の児童生徒が中位層・上位層へ移行している。特にすべての学年で下位層が減少していることから、基礎学力の定着を含めた学力向上が図られていると推察できる。
- ・昨年度の小6と今年度の中1の同一集団を比較すると、上位層が増加し下位層が減少していることから、国語において中1ギャップは見られない。小中一貫推進事業の取組の成果であると考える。

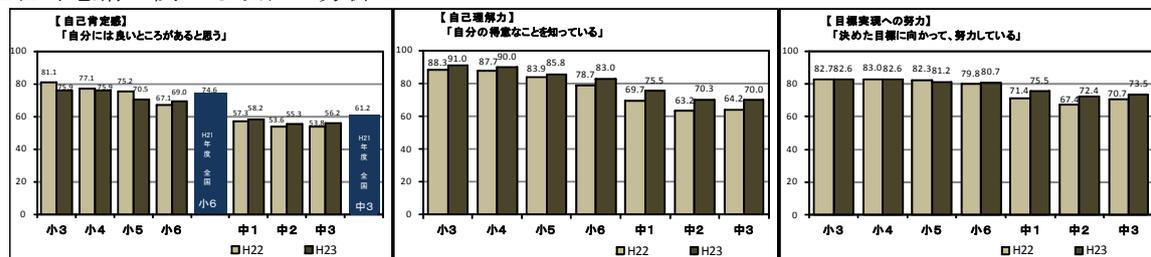
■算数・数学 度数分布の分析



- ・小5までは、上位層の児童が多い傾向にあるが、小6から中位層・下位層の児童生徒が増加し、中1と中2では、60%～70%を頂点とした丘型となっている。小6以降では、特に個に応じた指導の工夫を行い、発達や学年に応じた反復による学習を指導を進めるなど、下位層・中位層の学力向上を図る必要がある。
- ・昨年度の小6と今年度の中1の同一集団を比較すると、下位層が急激に増加したことから、算数・数学の教科としての特性に留意しながら、学年間などで同じ系統内容の接続を工夫するなどの指導が必要である。

③児童生徒質問紙調査結果の学習・生活状況（同一集団・同一学年）

■自尊感情に関わる項目の分析

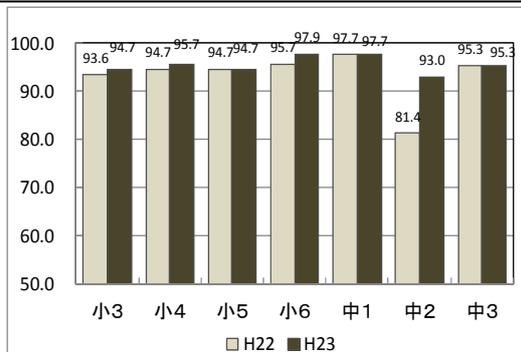


- ・「自分にはよいところがあると思う」については、小6と中1の差が9.8Pであったのに対し、今年度は10.8Pと大きく開いており、依然としてギャップが見られる。また平成21年度の全国調査と比較しても下回っており、今後も自尊感情を醸成する取組を継続していく必要がある。
- ・「自分の得意なことを知っている」はすべての学年で前年度を上回っており、特に小6では4.3P、中学生では5.8～7.1P上昇している。
- ・「決めた目標に向かって努力している」では、小6以上で改善の傾向が見られる。

④学校質問紙調査及び学年質問紙調査結果

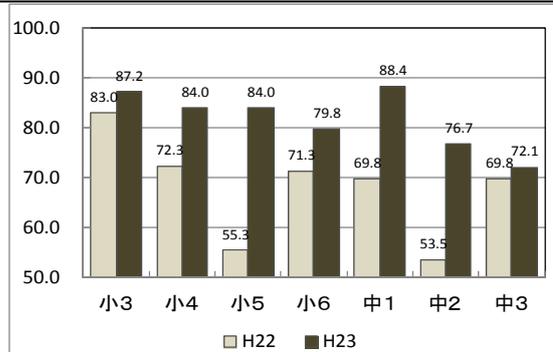
■言語活動の充実に関する項目の分析

「国語の指導において書く習慣を付ける授業を行っている」



- ・「国語の指導において、書く習慣を付ける授業を行っている」という調査項目では、小中学校とも、90%を超えており、中2では、昨年度に比べ、11.6P増加している。

「算数・数学の指導において、実生活における事象との関連を図った授業を行っている」



- ・「算数・数学の指導において、実生活における事象との関連を図った授業を行っている」と答えた学校は、昨年度に比べ大きく増加している。特に、小5で28.7P、中2で23.2P上回っている。

(3) 検討会及び協議会等の開催

- ◆分析プロジェクトチーム（市教委の各担当指導主事）をつくり、検討会を5回開催し、上記2の分析を行った。分析結果については、1/31全小中学校対象に結果概要説明会を開催して報告した。また、「保護者向けリーフレット」等を作成・配付した。
- ◆推進校の実践研究については、浜寺小学校においては、9/30、10/20、11/11、11/22、12/9、1/20、美原西中学校においては、1/27、2/3に全市に向けて研究発表会を実施した。その際授業後に協議会を開催した。効果的な取組については、「堺・教育フォーラム」「ゆめフォーラム」においても全市に発信した。

(様式1)

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究（小・中学校）」
平成23年度委託事業完了報告書
【推進地域】

都道府県名	神戸市	番号	62
-------	-----	----	----

推進地区名	推進校名	研究主題
神戸市	霞ヶ丘小学校	I・II・III型
神戸市	長坂中学校	I・II・III型

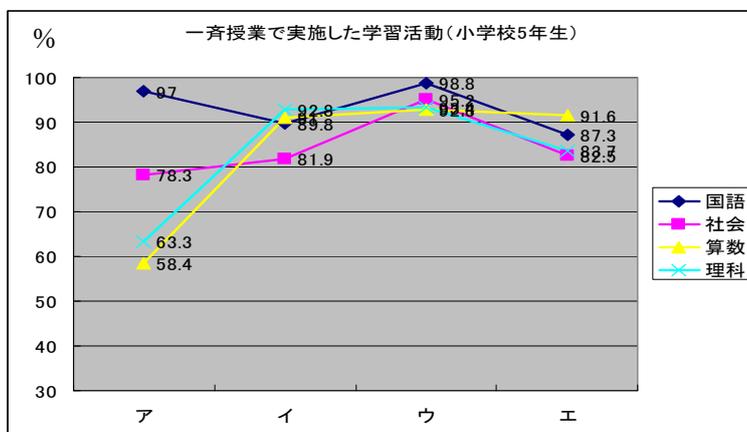
○ 取組の概要

神戸市では平成18年度から児童・生徒の学力及び学習意欲の向上を目指して「分かる授業推進プラン」を実施している。当プランについては、神戸市内全小中学校（小学校166校、中学校82校）を対象とした「特色ある神戸の教育推進アクティブプラン実施状況調査」によって進捗状況を調査している。平成23年度の調査結果の一部を報告する。

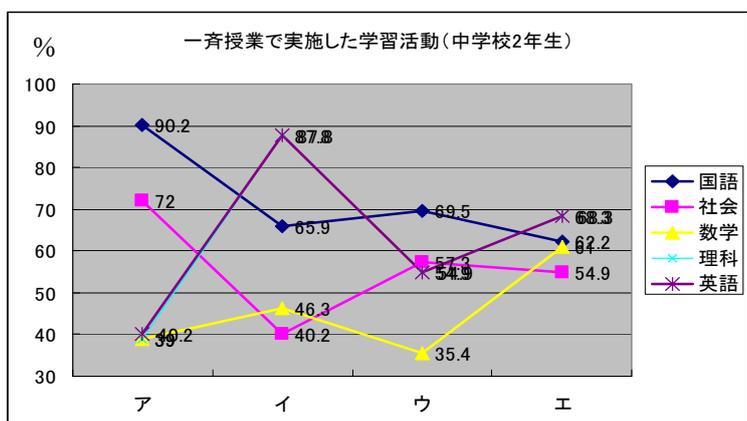
① 基礎的、基本的な知識・技能の習得に向けた取組について

- 小中学校で一斉授業の中で行った学習活動の実施状況は次の通りであった。

調査対象は小学校5年生、中学校2年生 (複数回答)	
(調査項目)	
ア 「読んで 考えて まとめながら 書く」 学習活動	
イ 小集団を使った学習活動	
ウ 話し合い活動を取り入れた学習活動	
エ 児童生徒の「学び合い」を意識した学習活動	

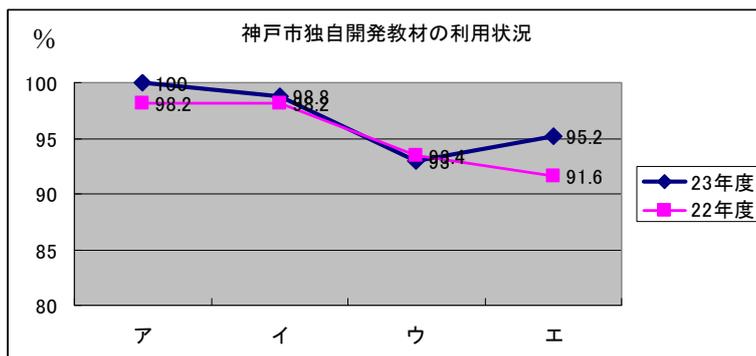


- 小学校においてはイ「小集団を使った学習活動」、ウ「話し合い活動を取り入れた学習活動」、エ「児童生徒の『学び合い』を意識した学習活動」が概ね実施されているが、算数・理科において言語活動と結びつける学習であるア「読んで 考えて まとめながら 書く」学習活動にやや課題が見られた。
- 中学校においてはアが国語で、イが英語で概ね実施されているものの、それぞれの学習活動を今後工夫していく必要がある。



- ・神戸市独自開発教材の利用状況は下記の通りであった。

(調査項目)	
ア	読解力育成教材「ことばひろがる よみときブック」(小学校3～6年)
イ	算数復習用補充教材「算数ダッシュ」 (小学校全学年)
ウ	算数復習用補充教材「算数エース」 (小学校全学年)
エ	観察・実験用ワークシート 「理科アシストカード」(小学校3～6年)

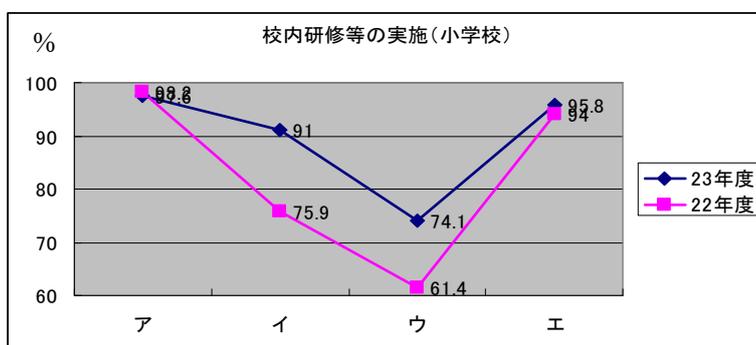


昨年度と比べて神戸市独自開発教材の利用と定着がさらに進んでいる。

② 学習習慣の定着や学習意欲の向上を目指した研修等の実施について

- ・新学習指導要領の全面実施に対応するため、小学校においては校内研修等が盛んに行われた。

(調査項目)	
ア	教員全体での研究協議の実施
イ	学年や教科担任等のグループでの研究協議の実施
ウ	校内の教員全員が1年に1回以上、研究授業を実施
エ	外部講師を招いての校内研修の実施



・教職員向け研修会等の開催

市内教職員に対して事務局指導部指導課主催の研修会を実施した。

- ・「第15回 神戸土曜教育フォーラム」 開催日：平成23年11月16日(土)
演題：「学習意欲を高め、主体的自己活動を喚起する授業づくり・学級づくり」
講師：兵庫教育大学大学院教授 長澤憲保氏
- ・「第16回 神戸土曜教育フォーラム」 開催日：平成24年2月25日(土)
演題：「各教科を貫く言語活動の充実を図るカリキュラムの創造」
講師：京都女子大学教授 井上一郎氏
- ・「分かる授業推進プラン担当者会」 開催日：平成23年10月6日(木)
演題：「国語力は人間力」
講師：京都女子大学教授 吉永幸司氏
- ・「神戸まとめの達人運動」啓発活動の実施

「神戸まとめの達人」運動は、神戸の小中学生に、新学習指導要領でも求められている「思考力・判断力・表現力の育成」に向けた言語活動の充実を図るために「読んで 考えて まとめながら 書く」力を育成する事を趣旨としている。また、神戸にゆかりのある人物や事象、事物に親しむ機会を提供するために「神戸まとめの達人(資料集)」(小学校高学年版・中学生版)を作成している。今年度は各学校に対して次のような啓発活動を実施した。

- ・「まとめの達ちやんとがんばる3週間」
- ・第1回 実施期間 平成23年6月27日(水)～7月19日(火)
取組内容；夏休み前の作文指導を中心とした言語活動の充実を図った。
(神戸市作文集「はぐるま」(小学校)、「花時計」(中学校)、神戸市読書感想文コンクール等への作品応募へ向けた指導も合わせて実施した。)
- ・第2回 実施期間 平成23年10月27日(水)～11月16日(火)
取組内容；第51回読書週間(10月27日～11月9日)に合わせて、読書活動を啓発するとともに、言語活動の充実を図った。
- ・実践事例集の発行
 - ・「分かる授業ハンドブック」Vol.6(「分かる授業推進プラン」等の実践を紹介している。)
 - ・「平成23年度 研修のまとめ」(神戸市立霞ヶ丘小学校)

2. 調査研究の成果及び今後の課題

①学力に課題のある児童生徒への対応

推進校をはじめ各小中学校における今年度の取組により、学力に課題のある児童生徒への対応については、次のような実践によって成果が見られた。

(教室環境整備)

- ・授業中に児童生徒の集中力を持続させるため、教室前面には掲示物を貼付したり、前面の黒板に予定表(当日や翌日)を書かないようにする。
- ・教室背面掲示板上に「学習のめあて」(「聞くとき・話すときの約束」)などを掲示し、児童生徒に常に意識させる。
- ・ペア学習、グループ学習など学習形態の変更がすぐにできるように机の配置を工夫をする。

(児童生徒理解)

- ・生活実態調査、保護者アンケート、プレスクリーニング、スクールカウンセラーや小中学校間での情報交換を通して、児童生徒一人一人の実態を把握し、指導に役立てる。
- ・家庭訪問、個別保護者会等を通じて、保護者へ児童生徒の生活面、学力面の様子を伝えるとともに、信頼関係の構築に努める。

(情報の伝達)

- ・学校だより、学年だより、学校ホームページを通じて学校行事、学校生活・学習の様子、学校評価を含めた各種調査結果を公表する。

(学習活動)

- ・基礎学力の向上のために児童生徒に目標(「〇〇博士になろう」など)を設定し、継続的に指導するとともに、工夫を凝らしたプリントを作成することにより、意欲的に取り組ませる。
- ・学習活動全般において言語活動の充実を図る取組を重視した指導が、学力の向上につながっている。学年・学校行事の中にプレゼンテーション、行事発表会や音読の会などを実施するとともに、同学年だけではなく、他学年、あるいは小学生が幼稚園児に、中学生が小学生に発表するなどの機会をもつことで、「相手意識」、「目的意識」を高める言語活動が展開できた。

(小中連携)

- ・教科指導を中心とした小中連携を展開することで教員の授業改善が進んだ。

②学力と学習に対する意識・生活実態との相関関係(平成23年度「神戸市学力定着度調査」より)

(それぞれの項目を選択した児童生徒を母集団として、各教科の正答率との相関を分析したものである。)

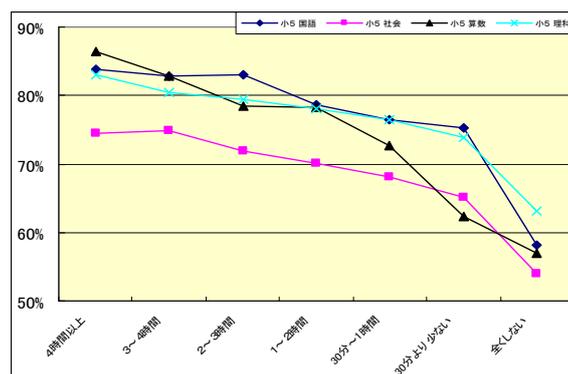
調査項目の中から特徴的な結果を右に示した。

- ・学力と家庭学習には高い相関が見られ、授業と連動したり、課題設定を明確にした家庭学習を支援していく必要がある。
- ・学校の図書室の有効利用が、学力とある程度の相関が見られることから図書室の充実と読書活動の啓発が必要である。

以上のような結果を含めて、今後、次のとおり取り組んでいきたい。

- ・家庭学習と授業とが連動するような支援方法を研究すること。
- ・新学習指導要領に掲げられている「思考力・判断力・表現力の育成」に向け、全ての教科で言語活動の充実をより一層図るとともに、児童生徒の「授業が分かる」割合を高め、学力の向上を目指した指導方法や授業形態の工夫・改善を行うこと。
- ・学校の図書室の充実を図り、読書活動の啓発を推進すること。
- ・校内研修活動を充実させ、若手教員をはじめとする全教員の指導力向上を図ること。
- ・教科指導を中心とした小中連携をさらに進めること。

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(小学校5年生)



学校の図書室で、1ヶ月に何冊ぐらい、本を借りますか。(中学校2年生)

